

12まいの 笑顔のシール



レイ・ゴールドラップ

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

「チャレンジがあります」とアントニオの初等協会の教師が言いました。「イエス様のような方法の一つは、人々を助けることです。ですから今週、できるだけ多くの人を助けるようにしましょう。」

彼女はみんなに紙と12まいの笑顔のシールをわたしました。「だれかを助ける度に、紙に笑顔をはってください。そして、来週のクラスにその紙を持って来てください。」

アントニオはチャレンジを行うのを楽しみにしていました。しかし、それは思っていた以上に大変なものでした。やがて木曜日になりましたが、アントニオはまだ自分の紙にシールをはれていませんでした。「天のお父様、助けられる人を見つけられるよう助けてください」といのりました。

次の朝、アントニオはチャレンジについてお母さんに話しました。「だれを助けたらいいのかわからないんだ!」とアントニオは言いました。

ちょうどそのとき、アントニオの赤ちゃんの弟が泣き始めました。「お母さんが



朝食を作っている間、ザックを見てよ」とアントニオは言いました。

アントニオは、おどけた顔をしてみました。すぐにザックはニコニコと笑い出しまし

た。

「それが笑顔のシールに値しないとしたら、なにらないのか分からないわ!」とお母さんは言いました。

朝食後、アントニオは皿あらいをしました。妹のしんじつからくもを取りのぞいてあげました。笑顔がもう二まい!

放課後、アントニオはお父さんが犬のレーダーを外であらうのを手伝いました。終わると、レーダーが毛についた水をふりはらいました。アントニオとお父さんは笑いました。

それからアントニオは、通りの向こう側で草むしりをしているウェークフィールドさんを見かけました。「お父さん、お手伝いしてもいい? ウェークフィールドさん、とても暑そうだし、つかれてるみたい。」

「それはすばらしいアイデアだね」とお父さんが言いまし



た。雑草が全部なくなると、ウェークフィールドさんはにっこりしました。

土曜日までに、アントニオの紙には11まいの笑顔のシールがはってありました。チャレンジを終えるには、あともう一まいだけが必要です! お母さんは、老人ホームに住むフランシスコ大おじさんを訪問すると言いました。そこでアントニオはひらめきました! クレヨンを取り出し、たくさんの絵をえがきました。

老人ホームに着くと、アントニオはおじさんに夕焼けの絵を手わたしました。フランシスコおじさんはアントニオにほほえみました。それからアントニオは、そこに住むほかの人たちに、残りの絵をわたしました。そこにはたくさんの幸せな笑顔がありました!

家に帰る途中、お母さんは「お店によって、もっと笑顔のシールを買ってもいいのよ」と言いました。

「もっとシールをもらうためにやったわけじゃないよ」とアントニオは言いました。「ぼくは人を幸せにするのが好きなんだ。」

「そしてそれが天のお父様とイエス様を幸せにするね!」とお父さんが言いました。

「あなたも幸せそうね」とお母さんが言いました。アントニオはほっぺたがいたくなるくらい笑っていました。●

このお話は、アメリカ合衆国での出来事です。